

CASBEE_Sapporo2014v1.0
京楽産業.グループ 札幌支店

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0

■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		重点評価項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質		W	G	S						
Q1 室内環境							0.39		-	4.3
1 音環境						4.0	0.15		-	4.0
1.1 騒音						3.0	0.40		-	
1.2 遮音						5.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能					遮音性能: T-2(カタログ値)のサッシを採用	5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能					界壁の遮音性能TLD=52	5.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音					床タイルカーペット、天井石綿吸音板を採用。	4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						4.4	0.35		-	4.4
2.1 室温制御						3.8	0.50		-	
1 室温		W			屋根、壁: 断熱材t100以上 開口部: ダブルスキャン又はトリプルを採用。	3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能					冷暖切り替え型マルチヒートポンプパッケージ空調機を採用	5.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性					天井埋め込み型加湿器設置。設計湿度を50%と想定。	4.0	0.38		-	
2.2 湿度制御					2F大会議室に床吹き出し空調を採用。	5.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						5.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						4.7	0.25		-	4.7
3.1 昼光利用						4.0	0.30		-	
1 昼光率					事務室-2において昼光率2.1%	4.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口							-	3.0	-	
3 昼光利用設備		W			ダブルスクリーンブラインドの採用	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策					ブラインド、ダブルスクリーンのガラスフィルムによりグレアを抑えた計画とする	5.0	0.30		-	
1 昼光制御		W			自動制御ブラインドを採用	5.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度					アンビエント照度500~700Lx、タスク照度750~1000Lx、天井水平面照度100lx	5.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御					制御によって適切な照度を確保。	5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						4.0	0.25		-	4.0
4.1 発生源対策						5.0	0.50		-	
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆材料を使用。	5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策							-		-	
4.2 換気						3.6	0.30		-	
1 換気量					居室面積の1/15以上の有効開口を確保	3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能					外気取入口は機械室以外は排気口と方位を変え、6m以上の距離を	4.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						4.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						2.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視						1.0	0.50		-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50		-	
Q2 サービス性能							0.30		-	3.8
1 機能性						4.2	0.40		-	4.2
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性					一人当たり12㎡を確保。	5.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30		-	
1 広さ感・景観					天井高3.0mとし窓を設置。	5.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース					喫煙室、リフレッシュ室、ドリンクコーナーを設置。	5.0	0.33		-	
3 内装計画					照明、内装計画をインテリファースにより検証。	5.0	0.33		-	
1.3 維持管理						5.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計					更新スペース及びリフトを確保し、将来対応を考慮している。	5.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保					更新スペース及びリフトを確保し、将来対応を考慮している。	5.0	0.50		-	
3 維持管理業務							-		-	
2 耐用性・信頼性						3.5	0.30		-	3.5
2.1 耐震・免震						3.8	0.50		-	
1 耐震性					重要度係数I=1.25とする	4.0	0.80		-	
2 免震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		W			外壁には押出成型セメント板、石を採用。屋根アスファルト防水に保護層あ	4.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		W			床カーペット20年、壁ビニルクロスGL工法20年、天井ボード20年	5.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		W				3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		W			給水・給湯: 一般配管用SUS鋼管、消火: 配管用炭素鋼管(白)の採	4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		W				3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						3.0	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備					通信手段の多様化を図り、機器への浸水防止を行っている。	4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性						3.7	0.30		-	3.7
3.1 空間のゆとり						4.6	0.30		-	
1 階高のゆとり					階高1F7.3m、2F6m、3F5.8m、4F4.8mを確保。	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ					基本柱スパン23.37m×3.0mとし無柱空間を確保。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性						3.6	0.40		-	
1 空調配管の更新性					更新スペース及びリフトを確保し、将来対応を考慮している。	4.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性						3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性					更新スペース及びリフトを確保し、将来対応を考慮している。	5.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性						3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性						3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保					3Fデッキ部をバックアップ機器スペースとして利用可能。	4.0	0.20		-	

CASBEE Sapporo2014v1.0 京楽産業.グループ 札幌支店				欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE Sapporo2014v1.0 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.0)			
スコアシート		実施設計段階		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理					
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	W	G	S		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q3 室外環境(敷地内)									
1 生物環境の保全と創出		G			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		G		周辺建物と調和しつつ、まちなみに新たなシンボルを形成。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			S	北西に空地を確保。ロードヒーティングを設置し視認性、安全性を高める。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	W	G			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性									
LR1 エネルギー									
1 建物外皮の熱負荷抑制	W			ダブルスキンによる自然換気、自然採光。ナイトバージ。	4.0	0.17	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	W			自然換気、太陽光発電による自然エネルギー直接利用量8.3MJ/年	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化				BEI 非住宅 0.82 住宅(専有部) -	4.0	0.52	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)	W			オンサイト分を含まないBEIm=0.92	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)	W				-	-	-	-	
4 効率的運用					3.5	0.21	-	-	3.5
集合住宅以外の評価					3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	W			事務所・住宅用途でのエネルギー使用量をモニタリング可能。	4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	W				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1 モニタリング	W				3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	W				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル									
1 水資源保護					-	0.30	-	-	3.1
1.1 節水				省水型水栓(自動水栓)、節水型便器の採用。	3.4	0.20	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					4.0	0.40	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.60	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.70	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.0	0.30	-	-	
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.60	-	-	3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W				3.0	0.10	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W			-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W			-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W				3.0	0.20	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	W				3.0	0.10	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.3	0.70	-	-	
1 消火剤	W			ハロンを一切仕様しない機器を採用。	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.33	-	-	
3 冷媒	W				3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境									
1 地球温暖化への配慮				大気汚染防止法におけるNOx排出基準の30~50%程度の機器を採	-	0.30	-	-	3.0
2 地域環境への配慮					3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止	W			大気汚染防止法におけるNOx排出基準の30~50%程度の機器を採	2.9	0.33	-	-	2.9
2.2 温熱環境悪化の改善	W	G	S		4.0	0.25	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.0	0.50	-	-	
1 雨水排水負荷低減	W				3.7	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				車庫において十分な駐車台数と天井高を確保。	3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	W		S	ゴミの分別スペース、保管室を確保。ディスプレイ設置。	4.0	0.25	-	-	
5.0					5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	0.33	-	-	
2 振動				昼間60dB,夜間50dBの制限を設ける。	3.0	0.33	-	-	
3 悪臭					3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.33	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.40	-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	0.70	-	-	
3 日照障害の抑制					3.0	-	-	-	
3.3 光害の抑制					3.0	0.30	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.20	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.70	-	-	
					3.0	0.30	-	-	